

一関地区広域行政組合
エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及び
マテリアルリサイクル推進施設
整備・運営事業
審査講評

令和 8 年 1 月

一関地区広域行政組合エネルギー回収型一般廃棄物
処理施設等整備・運営事業者選定委員会

一関地区広域行政組合
エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及び
マテリアルリサイクル推進施設
整備・運営事業
審査講評

目 次

第 1 章	事業の概要	1
1.	事業名称	1
2.	対象となる公共施設の種類	1
3.	事業内容	1
4.	民間事業者が実施する業務の範囲	2
第 2 章	審査方法等	3
1.	入札の方法	3
2.	落札者決定までの経過	3
3.	選定委員会の設置	4
4.	選定委員会の開催経過	5
5.	民間事業者の選定に係る流れ	6
6.	審査手順	7
7.	価格要素及び非価格要素審査における点数化方法	8
第 3 章	審査結果	11
1.	資格審査	11
2.	競争的対話	11
3.	提案審査	11
4.	総合評価点の算出	17
5.	落札候補者の選定	17
第 4 章	総評	19

第1章 事業の概要

1. 事業名称

一関地区広域行政組合エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設整備・運営事業

2. 対象となる公共施設の種類

一般廃棄物処理施設

3. 事業内容

1) 施設概要

施設の概要は以下に示すとおりである。

事業用地		岩手県一関市弥栄字一ノ沢地内
施設概要	エネルギー回収型一般廃棄物処理施設	1) 処理方式：焼却方式（ストーカ式） 2) 年間処理量：25,069 t/年 3) 施設規模：101 t/日（50.5 t/24h×2 炉） 4) 処理対象物：可燃ごみ、マテリアルリサイクル推進施設から発生した可燃残渣、し渣（可燃ごみには大型動物（ニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ等）を含む） 5) エネルギー回収率：14.0%以上 ※事業系の生ごみの一部は、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設に設置する生ごみ堆肥化設備（0.1 t/日）にて処理を行う。
	マテリアルリサイクル推進施設	1) 処理方法：不燃ごみ・不燃粗大ごみ処理系列：破碎、選別 缶処理系列：選別、圧縮 ペットボトル処理系列：選別、圧縮梱包 プラスチック資源処理系列：選別、圧縮梱包 2) 年間処理量：不燃ごみ 1,000 t/年 不燃粗大ごみ 299 t/年 缶 197 t/年 ペットボトル 222 t/年 プラスチック資源 621 t/年 3) 施設規模：13.0 t/5h 不燃ごみ・不燃粗大ごみ処理系列 7.8 t/5h 缶処理系列 1.0 t/5h ペットボトル資源処理系列 1.3 t/5h プラスチック資源処理系列 2.9 t/5h
付帯施設・付帯設備		管理棟、計量棟、資材保管庫、車庫棟、駐車場、資源物ストックヤード、災害廃棄物ストックヤード

2) 事業方式

本事業は、公共が資金調達し、本施設の設計・施工及び運営に係る業務を一括して民間に委託するDBO（Design：設計、Build：施工、Operate：運営）方式により実施するものとし、本事業の設計・建設業務は、特定建設工事共同企業体が行い、運営業務は、本事業のために設立する特別目的会社が行うものとする。なお、運営業務の委託期間は20年間としているが、一関地区広域行政組合（以下「組合」という。）は事業期間終了後に基幹的設備改良工事を行い、約40年間のプラント使用を予定しているため、民間事業者はそのことを前提とした設計・建設及び運営を行うものとする。

3) 事業期間

事業期間は、以下のとおりである。

(1) 設計・建設業務期間

事業契約締結日から令和12（2030）年7月末まで

(2) 運営業務期間

令和12（2030）年8月から令和32（2050）年7月末まで（20年間）

4. 民間事業者が実施する業務の範囲

民間事業者が実施する主な業務は、次のとおりとする。

- ・ 設計・建設業務
- ・ 運営業務

第2章 審査方法等

1. 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2. 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は、表1のとおりである。

表1 落札者決定の経過

日 程	項 目
令和7年4月9日(水)	入札の公告 入札説明書、要求水準書、落札者決定基準書、様式集、基本協定書(案)、基本契約書(案)、建設工事請負仮契約書(案)、運営業務委託契約書(案)
令和7年4月16日(水) ～令和7年4月18日(金)	現地視察の実施(希望者)
令和7年4月23日(水)	入札説明書等(入札説明書)に関する質問の受付
令和7年5月14日(水)	入札説明書等(入札説明書)に関する質問への回答
令和7年5月23日(金)	入札説明書等(要求水準書等)に関する質問の受付
令和7年5月29日(木) ～令和7年5月30日(金)	入札参加資格審査書類の受付
令和7年6月6日(金)	入札参加資格審査結果の通知
令和7年6月11日(水)	入札説明書等(要求水準書等)に関する質問への回答
令和7年6月30日(月) ～令和7年7月2日(水)	提案概要書の受付
令和7年7月24日(木)	競争的対話の実施
令和7年9月26日(金) ～令和7年9月30日(火)	入札書類・提案書類等の受付
令和7年12月18日(木)	提案書類に関するヒアリング、非価格要素及び価格要素審査、総合的な評価の実施
令和7年12月25日(木)	落札者の決定
令和7年12月26日(金)	落札者の公表

3. 選定委員会の設置

組合は、民間事業者の審査及び選定を実施するに当たって一関地区広域行政組合エネルギー回収型一般廃棄物処理施設等整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置した。

選定委員会は、有識者並びに組合構成市町及び組合の職員で構成し、専門的、技術的見地から提案内容を検討し、評価した結果を組合に報告するものとした。

表2 委員会の構成

（敬称略）

氏 名	所属・職名	構 成
佐藤 和久	一関工業高等専門学校未来創造工学科化学・バイオ系教授	有識者 （委員長）
八 鍬 浩	公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長	有識者 （副委員長）
野本 修	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士	有識者
菅原 稔	一関市市民環境部長	行政関係者
伊藤 正幸	平泉町町民福祉課長	行政関係者
菅原 哲紀	一関市総務部長	行政関係者
岩 淵 嘉之	平泉町総務課長	行政関係者
佐藤 正幸	一関地区広域行政組合事務局長	行政関係者

4. 選定委員会の開催経過

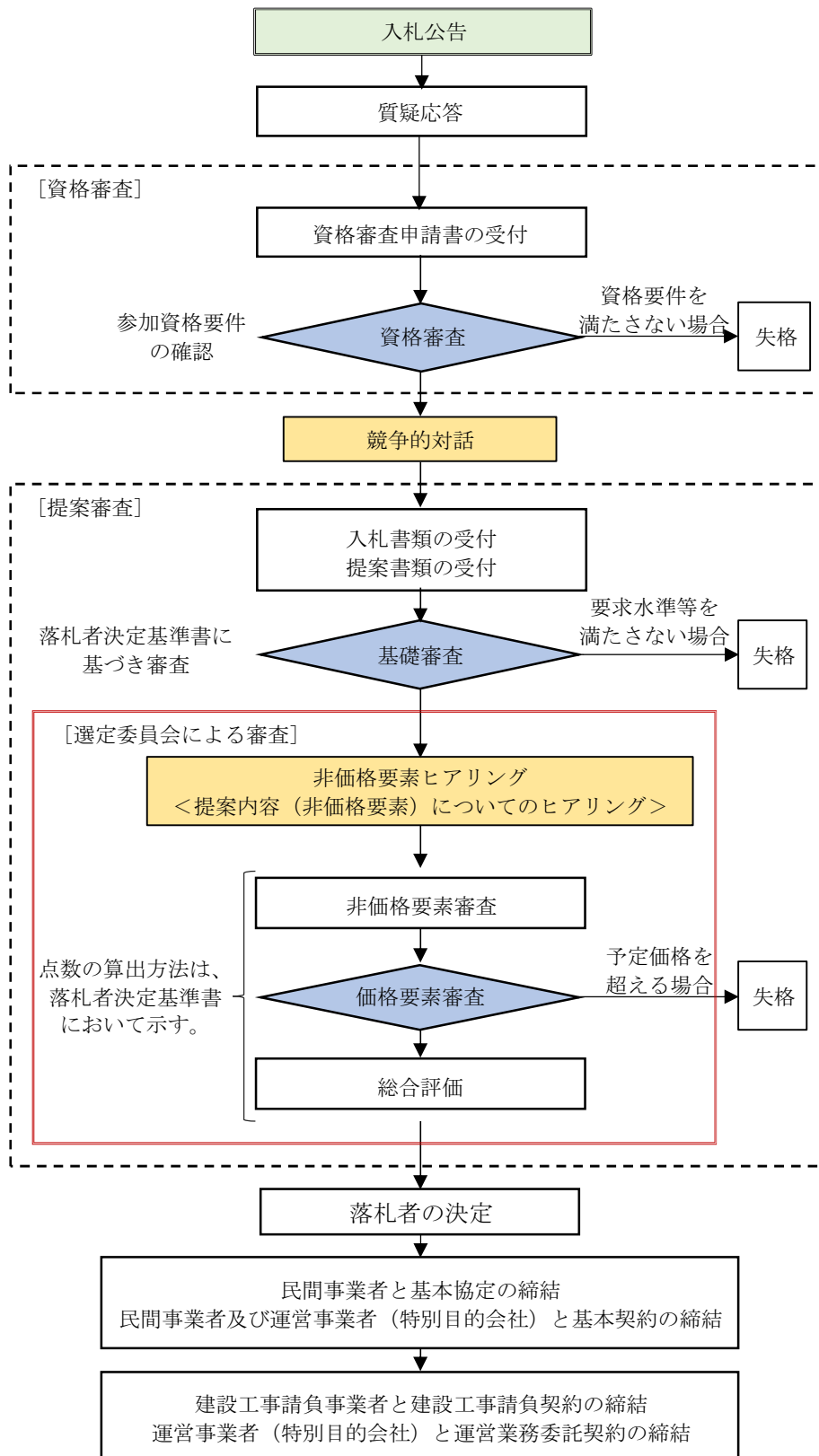
本事業における選定委員会の開催経過は、表3のとおりである。

表3 選定委員会の開催経過

日 程	開催回	議 題
令和6年8月22日(木)	第1回	・事業者選定委員会について ・事業概要について ・事業者選定スケジュールについて ・事業者選定方式について ・実施方針(案)について
令和6年11月20日(水)	第2回	・実施方針(案)について ・入札説明書(案)について ・要求水準書(案)について
令和7年1月30日(木)	第3回	・落札者決定基準書(案)について ・入札説明書(案)について ・要求水準書(案)について
令和7年3月19日(水)	第4回	・落札者決定基準書(案)について ・様式集(案)について ・事業契約書(案)について
令和7年11月19日(水)	第5回	・入札公告以降の経過について ・基礎審査について ・非価格要素提案書に対する質問への回答について ・応募者ヒアリング・審査の進め方について ・審査講評について
令和7年12月18日(木)	第6回	・非価格要素ヒアリング ・非価格要素審査 ・価格要素審査 ・総合的な評価 ・落札候補者の選定 ・審査講評について

5. 民間事業者の選定に係る流れ

民間事業者の審査及び選定の流れは以下のとおりである。



6. 審査手順

民間事業者の審査及び選定の流れは以下のとおりである。

1) 資格審査

応募者から提出された資格審査申請書等の内容が、入札説明書の「第4章 応募者の入札参加資格要件」に示す入札参加者が備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認し、結果を応募者に対し通知する。

2) 提案審査

(1) 基礎審査

入札参加者から提出された技術提案書及び事業計画書について、要求水準書等に表示された性能要件を満足するか、内容に齟齬、矛盾等がないかの確認・審査を行う。

【審査の確認ポイント】

① 提出書類の審査

- 必要な提出書類がそろっているか
- 提出書類において、書類間の整合性が図れているか

② 技術提案書と要求水準書の適合性

- 事業提案内容が要求水準を満たしているか

(2) 非価格要素審査

非価格要素提案書、技術提案書、事業計画書の内容を審査項目に基づき評価し点数化する。なお、審査に当たり入札参加者へのヒアリングを実施する。

(3) 価格要素審査

入札書に記載された金額が予定価格の範囲内であること及び事業計画書と入札書が整合していることの確認を行い、入札価格を点数化する。

(4) 総合評価

選定委員会による審査結果を踏まえ、以下のとおり落札候補者を選定する。

(2)の「非価格要素審査点」と(3)の「価格要素審査点」を加えて総合評価点を算出し、落札候補者を選定する。

$$\text{総合評価点} = \text{非価格要素審査点} + \text{価格要素審査点}$$

なお、非価格要素審査点の満点を50点、価格要素審査点の満点を50点とし、合計100点満点とする。

7. 価格要素及び非価格要素審査における点数化方法

1) 価格要素審査の点数化の方法

価格要素審査点の配点は、50点満点とし、以下の方法で得点を算定する。価格点の算定に当たっては、定量化限度額を設定し、定量化限度額以下で入札を行った場合は50点とする。なお、定量化限度額については、開札時に公表する。

【価格要素審査点の算出式】

■最低入札価格＞定量化限度額の場合

$$\text{価格要素審査点} = 50 \text{点} \times (\text{最低入札価格} / \text{入札価格})$$

■最低入札価格≤定量化限度額の場合

$$\text{価格要素審査点} = 50 \text{点} \times (\text{定量化限度額} / \text{入札価格})$$

※得点は小数第3位を四捨五入して小数第2位まで算出する。

※入札最低価格：入札参加者から提出された入札価格のうち最低の入札価格

※入札価格：入札参加者から提出された入札価格

2) 非価格要素審査における点数化の方法

非価格要素審査点の配点は50点とし、以下の式により算出する。なお、得点は小数第3位を四捨五入した値とする。

(1) 評価項目の採点基準

各評価項目において、次に示す5段階により評価・点数化する。採点は、選定委員会の委員が個別に評価・点数化し、その合計の平均点を非価格要素審査点とする。なお、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とする。

表4 評価の採点基準と算出方法

評価	評価内容	採点の算出方法
A	非常に優れている	項目ごとの配点 × 1.00
B	AとCの中間程度	項目ごとの配点 × 0.75
C	優れている	項目ごとの配点 × 0.50
D	CとEの中間程度	項目ごとの配点 × 0.25
E	優れているとは認められない	項目ごとの配点 × 0.00

(2) 評価項目と配点

評価項目と配点は次に示すとおりとする。

表5 評価項目と配点

評価項目		求める提案(評価基準)	配点
事業全般に関する提案			[6点]
事業全体に関する事項	施設の配置計画及び動線の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の配置計画及び車両、歩行者、見学者の動線について工夫(安全性、スムーズさ、分かりやすさ)した提案がされているか。 ●通常時及び直接搬入車両台数が増加する時期の渋滞に配慮した提案がされているか。 ●作業動線やメンテナンススペースの確保など、点検・修繕に配慮した提案がされているか。 ●設備の更新に配慮した提案がされているか。 	3点
	地元企業の活用・地元人材の雇用	<ul style="list-style-type: none"> ●地元企業の活用と地元人材の雇用について方針、考え方及び発注内容が具体化されているか。 ●地元企業の活用と地元人材の雇用に十分配慮した計画であるか。 	3点
5つの基本方針に関する提案			[44点]
1. 安定性に優れた安全な施設			[22点]
1-1 施工計画	施工計画	<ul style="list-style-type: none"> ●工事計画について、工程を確実に遵守するための妥当性を有した提案がされているか。 ●工事期間中の安全管理について、計画性と実行性を有した提案がされているか。 	1点
1-2 ごみ量、ごみ質の変動への対応	ごみ量、ごみ質の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー回収型一般廃棄物処理施設について、長期的なごみ量及び低位発熱量の変化に対して、安定的に処理を行う方法が提案されているか。特に、低負荷運転や低質ごみに対する適切な処理が提案されているか。 ●マテリアルリサイクル推進施設について、季節変動によるごみ量の変動等に対して、安定的に処理を行う方法について提案されているか。 	2点
	大型動物の処理	<ul style="list-style-type: none"> ●大型動物の受入から処理までについて、安定的かつ安全に処理するための具体的な方法が提案されているか。 	1点
1-3 施設の安全性等	同種施設の受注実績	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー回収型一般廃棄物処理施設のプラントの設計・建設を行う構成員は、以下のすべての条件に該当する一般廃棄物処理施設について、地方公共団体(一部事務組合・広域連合を含む)へ元請けとして納入した実績を有しているか。 ①施設規模:100t/日以上 ②ボイラ発電の有無:有 ③処理方式:焼却方式(ストーカ式) ④契約年度:平成21年度～令和5年度 【採点基準】A:7件以上、B:5～6件、C:3～4件、D:1～2件、E:0件 ※組合にて評価 	2点
		<ul style="list-style-type: none"> ●マテリアルリサイクル推進施設のプラントの設計・建設を行う構成員は、以下のすべての条件に該当する一般廃棄物処理施設について、地方公共団体(一部事務組合・広域連合を含む)へ元請けとして納入した実績を有しているか。 ①施設規模:施設全体として10t/日以上 ②処理ライン:不燃・粗大ごみの破碎選別処理ラインを有する ③契約年度:平成21年度～令和5年度 【採点基準】A:4件以上、B:3件、C:2件、D:1件、E:0件 ※組合にて評価 	2点
		<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の運転・維持管理を行う構成員は、地方公共団体の一般廃棄物処理施設であるごみ焼却施設のうち、100t/日以上規模かつボイラ発電設備を有するストーカ式の施設において、令和7年3月31日時点で1年以上の運転・維持管理実績を有しているか。 【採点基準】A:7件以上、B:5～6件、C:3～4件、D:1～2件、E:0件 ※組合にて評価 	2点
		<ul style="list-style-type: none"> ●マテリアルリサイクル推進施設の運転・維持管理を行う構成員は、地方公共団体の一般廃棄物処理施設であるマテリアルリサイクル推進施設のうち、10t/日以上規模かつ不燃・粗大ごみの破碎選別処理ラインを有する施設において、令和7年3月31日時点で1年以上の運転・維持管理実績を有しているか。 【採点基準】A:4件以上、B:3件、C:2件、D:1件、E:0件 ※組合にて評価 	2点
	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設の火災等に係る安全対策として、設備面及び運営面等での対策(特にリチウムイオン電池等に起因する火災)について提案されているか。 ●労働災害を未然に防ぐための、設備面及び運営面における対応が提案されているか。 	2点

評価項目			求める提案(評価基準)	配点
		リスク管理	<ul style="list-style-type: none">● エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及びマテリアルリサイクル推進施設の運営期間中の安定稼働に対するリスク管理について、リスク管理方針、リスク管理体制及びリスク回避の方策が具体的に提案されているか。● セルフモニタリング(提案内容の履行確認を含む)方法や内容等が具体的に提案されているか。● 施設稼働停止時(処理停止時)のバックアップ体制について具体的に提案されているか。	2 点
	1-4 運転体制、 人員配置計画	効率的な運営の工夫と役割分担の明確化	<ul style="list-style-type: none">● 円滑な施設運営を行うための適切な人員配置が提案されているか。● AI・IoT の導入のコンセプト並びに効率的な運営を実現するための AI・IoT の具体的な活用やその効果が提案されているか。● 常時の組織体制及び運転管理体制、非常時の役割分担等が明確に提案されているか。	2 点
		運営ノウハウの継承及びその後のサポート体制	<ul style="list-style-type: none">● 運営期間終了後における次期運営へのスムーズな移行やその後のサポート体制等の提案がされているか。	1 点
		職員への教育	<ul style="list-style-type: none">● 施設の運営に従事する職員への教育が経験に応じた適切な提案となっているか。	1 点
	1-5 経営計画及び事業収支計画	事業の継続性	<ul style="list-style-type: none">● SPC への出資の内訳、ガバナンス・経営責任、収支計画の妥当性等から、SPC の事業継続性の担保が提案されているか。	2 点
2. 環境に配慮した施設				[9 点]
2-1 脱炭素社会 に向けた貢献	温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none">● 施設の運営に伴い発生する温室効果ガス排出量の削減の方策が提案されているか。 ※温室効果ガス排出量を組合にて評価	2 点	
	建築物として温室効果ガス排出量の削減に寄与する工夫	<ul style="list-style-type: none">● 省エネ機器の導入や快適な室内環境を実現しながら建物で消費するエネルギーを極力減らす積極的な取組がされているか。	2 点	
2-2 公害防止対策	公害防止基準に関する対応	<ul style="list-style-type: none">● 公害防止基準を遵守するための方策(エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の排ガス及びその他必要な項目)と運転監視方法(測定項目、頻度及び箇所等)について、経済性及び実行可能性に十分配慮した提案がされているか。	2 点	
2-3 施設の外観及び景観	施設の外観及び景観との調和	<ul style="list-style-type: none">● 華美にならない範囲で、周辺の環境や景観と調和した外観が提案されているか。	2 点	
2-4 環境啓発・学習	環境啓発・学習の工夫	<ul style="list-style-type: none">● 小学生や地域住民に対して、3R+Renewable を中心としたごみの減量化・再資源化並びに脱炭素化等の環境政策を分かりやすく効果的に伝えるような啓発設備(生ごみ堆肥化、余熱利用、啓発用再生可能エネルギー発電設備に関するものを含む)が提案されているか。	1 点	
3. 廃棄物を資源として活用できる施設				[7 点]
3-1 余熱利用計画	余熱利用に関する工夫	<ul style="list-style-type: none">● 稼働計画を踏まえた適切な運転、電力のノンファーム型接続、余熱利用施設への 7.6GJ/h の熱供給を前提として、経済的で妥当性のあるエネルギー回収率(ボイラ蒸気条件、定格発電出力、発電効率、売電量を含む)が提案されているか。● 余熱利用施設へ 7.6GJ/h の熱を供給しつつ、売電量を最大化するための設計面及び運営面の取組について提案されているか。	3 点	
3-2 資源物の品質の向上と効率的な処理	資源物の品質の向上と効率的な処理	<ul style="list-style-type: none">● マテリアルリサイクル推進施設における資源物の品質を向上させる工夫が提案されているか。また、効率的な処理が提案されているか。	3 点	
3-3 最終処分量の減量	最終処分量の最少化	<ul style="list-style-type: none">● 施設から搬出される副生成物の最終処分量を最少化するための工夫が提案されているか。	1 点	
4. 災害に強い施設				[3 点]
4-1 災害対応	災害への対応	<ul style="list-style-type: none">● 災害対応(管理・連絡・運転体制、一時避難者の受入等)が提案されているか。● 災害発生後、運転や復旧を最短で行うための具体的な方策が提案されているか。● 災害に対して強靱な施設や、そのための工夫について提案されているか。● 災害廃棄物の処理について、具体的な方策が提案されているか。	3 点	
5. 経済性に優れた施設				[3 点]
5-1 施設の維持補修費の縮減と長寿命化	施設の運営期間中の維持補修費の縮減と長期的な施設の稼働によるライフサイクルコストの縮減	<ul style="list-style-type: none">● 設計・建設面において、運営期間中の維持補修費を縮減するとともに、約 40 年間の長期稼働を見据えた提案がされているか。● 運営期間中の維持補修費の縮減に配慮した稼働計画及び維持管理計画が提案されているか。● 運営期間終了後に大規模な修繕・補修を集中させないような維持管理計画が提案されているか。	3 点	
				計 50 点

第3章 審査結果

1. 資格審査

令和7年4月9日に入札公告を行い、令和7年5月30日に入札参加資格審査書類を受け付けたところ、以下の2グループから申請があった。

組合は、入札参加資格の確認審査を行い、令和7年6月6日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表6 入札参加資格審査書類提出グループの概要

受付 グループ名	さくらグループ	なのはなグループ
代表企業	カナデビア株式会社 東北支社	株式会社タクマ 東京支社

なお、選定委員会による審査に当たっては、審査の公平性を期すため、非価格要素提案書等すべての書類において企業名は伏せ、表6の受付グループ名で識別して審査を行った。

2. 競争的対話

組合は、資格審査を合格した応募者（以下「入札参加者」という。）に対して、提案書類の提出前に、確実に発注者の意図が入札参加者に伝わること、またその意図が提案書類に反映されることを目的として以下の要領で競争的対話を実施した。

実施日：令和7年7月24日（木）

会場：一関保健センター2階 栄養指導室

実施要領：入札参加者による提案概要書の説明 20分

説明に対する質疑応答

・事務局からの質問 30分

・入札参加者からの質問 40分

3. 提案審査

1) 基礎審査

令和7年9月30日までに入札参加資格を有する2グループより入札書類及び提案書類（技術提案書、事業計画書、非価格要素提案書）等が提出された。組合は、入札参加者の提出した技術提案書及び事業計画書について、書類不備の有無のほか、要求水準書等に規定された性能要件を満足しているか、また、内容に齟齬、矛盾等がないかの確認・審査を行った。

その結果、入札書類等を提出した2グループは、いずれも基礎審査項目を満たしていることが確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

2) 非価格要素審査

令和7年12月18日に選定委員会において非価格要素審査を行った。

審査に関しては、提案書類に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施した。非価格要素審査における審査項目について、適切な提案がなされているか審査し、得点化を行った。なお、評価は組合の要求水準を満たした上で、より優れた提案に対して評価を行う加点方式とした。

非価格要素審査の結果は表7のとおりである。

表7 非価格要素審査の得点結果

評価項目			配点	さくらグループ	なのはなグループ
事業全般に関する提案			6点	3.66点	4.03点
事業全体に関する事項	施設の配置計画及び動線の工夫		3点	1.50点	2.25点
	地元企業の活用・地元人材の雇用		3点	2.16点	1.78点
5つの基本方針に関する提案			44点	29.72点	31.07点
1. 安定性に優れた安全な施設			22点	16.28点	16.34点
1-1 施工計画	施工計画		1点	0.56点	0.59点
1-2 ごみ量、ごみ質の変動への対応	ごみ量、ごみ質の変化への対応		2点	1.38点	1.38点
	大型動物の処理		1点	0.59点	0.66点
1-3 施設の安全性等	同種施設の受注実績	エネルギー回収型一般廃棄物処理施設のプラントの設計・建設	2点	2.00点	2.00点
		マテリアルリサイクル推進施設のプラントの設計・建設	2点	2.00点	2.00点
		エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の運転・維持管理	2点	2.00点	2.00点
		マテリアルリサイクル推進施設の運転・維持管理	2点	2.00点	2.00点
	安全対策		2点	1.19点	1.31点
	リスク管理		2点	1.00点	1.06点
	1-4 運転体制、人員配置計画	効率的な運営の工夫と役割分担の明確化		2点	1.25点
運営ノウハウの継承及びその後のサポート体制		1点	0.59点	0.53点	
職員への教育		1点	0.53点	0.50点	
1-5 経営計画及び事業収支計画	事業の継続性		2点	1.19点	1.06点

評価項目		配点	さくら グループ	なのはな グループ
2. 環境に配慮した施設		9 点	5.75 点	6.50 点
2-1 脱炭素社会に向けた貢献	温室効果ガス排出量の削減	2 点	2.00 点	2.00 点
	建築物として温室効果ガス排出量の削減に寄与する工夫	2 点	1.13 点	1.31 点
2-2 公害防止対策	公害防止基準に関する対応	2 点	1.06 点	1.31 点
2-3 施設の外観及び景観	施設の外観及び景観との調和	2 点	1.06 点	1.25 点
2-4 環境啓発・学習	環境啓発・学習の工夫	1 点	0.50 点	0.63 点
3. 廃棄物を資源として活用できる施設		7 点	4.22 点	4.57 点
3-1 余熱利用計画	余熱利用に関する工夫	3 点	1.78 点	2.25 点
3-2 資源物の品質の向上と効率的な処理	資源物の品質の向上と効率的な処理	3 点	1.88 点	1.69 点
3-3 最終処分量の減量	最終処分量の最少化	1 点	0.56 点	0.63 点
4. 災害に強い施設		3 点	1.88 点	1.78 点
4-1 災害対応	災害への対応	3 点	1.88 点	1.78 点
5. 経済性に優れた施設		3 点	1.59 点	1.88 点
5-1 施設の維持補修費の縮減と長寿命化	施設の運営期間中の維持補修費の縮減と長期的な施設の稼働によるライフサイクルコストの縮減	3 点	1.59 点	1.88 点
非価格要素審査の得点		50 点	33.38 点	35.09 点

※四捨五入の関係で内訳と合計は必ずしも一致しない。

非価格要素審査における講評は、表 8 のとおりである。

表8 審査項目ごとの講評

評価項目		講評
事業全般に関する提案		
事業全体に関する事項	施設の配置計画及び動線の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、渋滞及び動線の交錯に配慮した提案がされている点を評価した。 ・なのはなグループは、直接搬入者の安全性及び利便性により配慮した配置計画及び動線の提案がされている点を評価した。
	地元企業の活用・地元人材の雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、設計・建設業務及び運営・維持管理業務において、地元企業の活用や地元人材の継続的な雇用に配慮した提案がされている点を評価した。 ・さくらグループは、活用する地元企業数や地元人材の雇用人数がより多い点を評価した。
5つの基本方針に関する提案		
1. 安定性に優れた安全な施設		
1-1 施工計画	施工計画	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、工程管理に関して事業地の特性も踏まえた具体的な提案がされている点を評価した。
1-2 ごみ量、ごみ質の変動への対応	ごみ量、ごみ質の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、AI 技術も活用しながら、ごみ量、ごみ質の変化に対応する提案がされている点を評価した。
	大型動物の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、大量の動物を安定的かつ衛生的に処理するための具体的な提案がされている点を評価した。
1-3 施設の安全性等	同種施設の受注実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、同種施設の設計・建設実績及び運転・維持管理実績を十分有している点を評価した。
	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、各施設における火災の未然防止策や被害拡大防止策について、最新技術の活用と体制の構築を組み合わせた提案がされている点を評価した。また、安全な労働環境に向けた対応について具体的に提案している点を評価した。 ・なのはなグループは、住民の分別行動を後押しする取り組みについての提案を評価した。
	リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、設計・建設時、運営時のそれぞれにおけるリスクに対し、具体的な対応策とバックアップ体制が提案されている点を評価した。

評価項目		講評
1-4 運転体制、人員配置計画	効率的な運営の工夫と役割分担の明確化	・各グループとも、組合との連絡窓口を一元化する等、円滑な運営に向けた体制が具体的に提案されている点を評価した。また、各施設の要職には経験者を配置するとともに、地域の特性を熟知した既存施設の運転員を継続雇用する等、適切な人員配置が提案されている点を評価した。
	運営ノウハウの継承及びその後のサポート体制	・各グループとも、運営期間中における運営ノウハウの引継ぎ及び運営期間終了後のサポート体制について、計画的かつ具体的に提案している点を評価した。
	職員への教育	・各グループとも、段階的な教育プログラムの運用が計画されており、安定した施設運営に向けた職員への教育体制が提案されている点を評価した。
1-5 経営計画及び事業収支計画	事業の継続性	・各グループとも事業継続性の確保について、SPC(特別目的会社。本事業の運営業務を実施するために、民間事業者が会社法(平成 17 年法律第 86 号)に規定する株式会社として組合構成市町内に設立する会社のこと。)の資金拡充や代表企業によるSPCへの財務支援等が提案されており、不測の事態に備えた具体的な資金確保策が提案されている点を評価した。 ・さくらグループは、代表企業による手厚い保証を評価した。
2. 環境に配慮した施設		
2-1 脱炭素社会に向けた貢献	温室効果ガス排出量の削減	・各グループとも、処理量 1 トン当たりの温室効果ガスの削減量が、一般的な数値よりも多い点を評価した。
	建築物として温室効果ガス排出量の削減に寄与する工夫	・各グループとも、建築設備やプラントシステムにおける省エネ機器の導入等による、温室効果ガス排出量の削減について、具体的に提案している点を評価した。 ・なのはなグループは、より温室効果ガス削減量が多い点を評価した。
2-2 公害防止対策	公害防止基準に関する対応	・各グループとも、排ガスの公害防止基準を確実に遵守するための方策について、発生抑制技術と除去技術を組み合わせた具体的な提案がされている点を評価した。 ・なのはなグループは、光害にも配慮している点を評価した。
2-3 施設の外観及び景観	施設の外観及び景観との調和	・各グループとも、周辺の環境や景観と調和した圧迫感の少ない施設配置、色彩等が提案されている点を評価した。 ・なのはなグループは、美観の維持にも配慮している点を評価した。

評価項目		講評
2-4 環境啓発・学習	環境啓発・学習の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、環境政策について分かりやすく効果的に伝えるような啓発設備が具体的に提案されている点を評価した。また、啓発設備の陳腐化に配慮した提案がされている点を評価した。 ・なのはなグループは、マテリアルリサイクル推進施設についても直接目視で見学できる点を評価した。
3. 廃棄物を資源として活用できる施設		
3-1 余熱利用計画	余熱利用に関する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、前提条件を踏まえた上で、経済性に配慮したボイラ蒸気条件、定格発電出力等が提案されている点を評価した。 ・なのはなグループは、将来における更なるエネルギー利用の可能性を評価した。
3-2 資源物の品質の向上と効率的な処理	資源物の品質の向上と効率的な処理	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、選別金属類の純度及び回収率について、要求水準を上回る提案がなされており、実現のための具体的な方策が提案されている点を評価した。 ・さくらグループは、選別金属類について、より高い純度及び回収率が提案されている点を評価した。
3-3 最終処分量の減量	最終処分量の最少化	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、副生成物の最終処分量を最少化するための方策及び削減量について、具体的に提案されている点を評価した。
4. 災害に強い施設		
4-1 災害対応	災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、災害発生時の管理・連絡・運転体制の構築や BCP(事業継続計画。被災して業務遂行能力が低下した状況下で、優先すべき業務を継続・再開・開始するための計画。)の策定、バックアップ体制の構築等、災害時においても施設やごみ処理への影響を最小限にするための方策が提案されている点を評価した。また、一時避難者の受入について、具体的に提案されている点を評価した。
5. 経済性に優れた施設		
5-1 施設の維持補修費の縮減と長寿命化	施設の運営期間中の維持補修費の縮減と長期的な施設の稼働によるライフサイクルコストの縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループとも、運営期間終了後の補修・更新費等の低減・分散に向けた具体的な提案がされている点を評価した。 ・なのはなグループは、高耐久設計と運営時の維持管理コスト低減策による 40 年間におけるコスト縮減効果を評価した。

3) 価格要素審査

非価格要素審査終了後、組合は入札参加者の立会いのもとで令和7年12月18日に開札を行い、入札参加者の入札金額が予定価格の範囲内であることを確認した。また、定量化限度額を開札時に公表した。

その後、選定委員会は開札結果の報告を受け、価格要素審査として入札金額の得点化を行った。得点化の結果は表9のとおりである。

表9 価格要素審査の得点結果

受付グループ名		さくらグループ	なのはなグループ
代表企業名		カナデビア株式会社 東北支社	株式会社タクマ 東京支社
配点		50.00 点	50.00 点
入札金額（税込）		40,238,000,000 円	37,829,000,000 円
うち	建設費	23,686,793,900 円	23,364,000,000 円
	運営費	16,551,206,100 円	14,465,000,000 円
価格要素審査の得点		47.01 点	50.00 点

※定量化限度額 34,882,500,000 円（税込）

4. 総合評価点の算出

「非価格要素審査の得点」、「価格要素審査の得点」を加算して、表10のとおり総合評価点を算出した。

表10 総合評価点の算出結果

入札参加者		非価格要素審査の得点（A）	価格要素審査の得点（B）	総合評価点（A）＋（B）
受付グループ名	代表企業名			
さくらグループ	カナデビア株式会社 東北支社	33.38 点	47.01 点	80.39 点
なのはなグループ	株式会社タクマ 東京支社	35.09 点	50.00 点	85.09 点

5. 落札候補者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「なのはなグループ（代表企業：株式会社タクマ東京支社）」を落札候補者として選定した。

表 11 落札候補者の企業構成

受付グループ名	なのはなグループ
代表企業	株式会社タクマ 東京支社
構成員	株式会社大建設 東北事務所 日本国土開発株式会社 北東北営業所 株式会社佐々木組 株式会社タクマテクノス
協力企業	株式会社金澤電気工業所 株式会社森燃 株式会社中島設備

第4章 総評

本事業は、一関地区広域行政組合の新ごみ処理施設（エネルギー回収型一般廃棄物処理施設、マテリアルリサイクル推進施設）の整備と、20年間の運営・維持管理業務をDBO方式で実施するものである。

選定委員会では、組合が掲げる施設整備基本方針に基づき選定基準及び選定方法等を定め、落札候補者選定のための審査を実施した。

今回入札に参加した2グループの提案は、いずれも要求水準を十分に満足し、すべての評価項目において加点要素が見られる優れた内容であった。提案内容が多岐にわたることから、提案書類の作成に当たっては、多大な労力及び費用負担があったと想定され、このような提案書類を短期間のうちにまとめ上げたことに敬意を表すとともに、深く感謝する。

審査に当たっては、落札者決定基準書に基づき、提案書類及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、提案書類に関する非価格要素審査点と入札価格に対する価格要素審査点を合計した総合評価点で最も高い得点を獲得した株式会社タクマ東京支社を代表企業とするなのはなグループを落札候補者として選定した。

なのはなグループの提案は、本事業の特性を的確に捉えた上で、本事業の基本方針に対応するための創意工夫がなされており、経済性も両立した提案となっていると評価したものであり、特に、「直接搬入者や見学者の安全性と利便性を考慮した施設配置や動線」、「光害対策による周辺環境や希少生物への配慮」、「将来的な電力の有効利用による脱炭素化の推進とコスト縮減に関する提案」について高く評価した。

一方、選定委員会においては以下の要望も挙げられた。なのはなグループにおいては、本事業をより良いものとするため、これらの要望事項に対して真摯な対応を希望する。

- ・ 地元企業の活用や地元人材への雇用について、提案された企業数や人数を達成するとともに、さらなる地元貢献に配慮すること。
- ・ ごみピット等における火災の防止、早期検知及び発生時の消火について、組合と十分に協議を行い、対策に努めること。
- ・ 環境啓発設備の内容については、組合と十分に協議を行い、効果的かつ経済性に配慮したものとすること。
- ・ 発電に係る設備の設計に当たっては、将来的なごみ量の減少も踏まえて、経済性等についてさらなる検討を行うこと。

最後に、一関地区広域行政組合及び落札候補者の両者に対しては、本事業が一関市及び平泉町の住民の生活にとって極めて重要な位置付けを担うものであることを再認識し、長期間に及ぶ本事業の実施に当たっては、双方が信頼と誠意をもって協働して地域との信頼関係を築きながら、一関市と平泉町の安定かつ円滑なごみ処理に寄与することを期待する。

令和 8 年 1 月 20 日

一関地区広域行政組合

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設等整備・運営事業者選定委員会

委員長 佐藤 和久